



別の顔

放課後は



after

上トレーニングをしています。水泳をしていて一番うれしいと感じたのは、大会で自己ベストタイムを更新した時です。得意種目の50mバタフライでは、県大会の成績が認められ、3月の九州大会にも出場。33秒77の結果を残すこ

寿北小学校
みやした ななみ
宮下 七海 さん(6年生)



クラスでは整美委員会に所属。好きな戦国武将は島津義弘で、歴史の授業が始まるのを心待ちにしている。休み時間は友達と話すことが多く、優しい性格で人望も厚い。

とができました。これからもキック力の強化と肩をテンポよく回すことを意識して、目標である30秒台を目指します。今後は距離を伸ばして、1000mのバタフライにも挑戦する予定です。これからも水泳教室の先輩たちを目標にしながら、コーチへの感謝の心を大切にしつつ、練習をがんばります。



保

育園のとき、プールを体験したことがきっかけで5歳から始めた水泳。現在では優しい仲間や頼りになる先輩たちと一緒に週に6回、1日1時間半から2時間の練習に加え、週に2回の陸



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイム トラベル ~温故写新~

3話

こあざ 失われた小字



▲現在の瀬戸町交差点

住所における「鹿屋市〇〇」の〇〇にあたる部分は、大字と呼ばれ、近世の藩政時代の村、もしくはそれ以前から存在してきた地域共同体の名称が起源とされています。大字は現代に生きる我々にもなじみ深い地名ですが、小字とは、大字からさらに細分化された地名で、田畑や山林などの地形的な特徴を捉えたものや、薩摩藩の時代につくられた「門割制度」(数戸を門という単位に編成し、耕地を割り当てる制度)の門の名称である門名(かどな)を起源とするものがあります。小字の使用は明治22年の市制



▲昭和24年頃の瀬戸町周辺の様子

及び町村制の施行の年に整理されたのが始まりですが、大正2年の郡自治制廃止、昭和16年の市制施行と周辺の町村合併に伴い小字の表記の廃止が進められました。現在では忘れ去られ、残っていない地名も少なくありません。小字は当時の地理的状况と人々の暮らしぶりを推測する貴重な歴史的資料にもなるほか、明治時代になって「戸籍法」が制定されると、小字や門名をそのまま名字とする場合があり、現在の我々の名字の起源をうかがい知ることもできます。現在、小字は瀬戸町(本町)、や石佛(田崎町)、谷田(下高隈町)といった交差点やバス停の名称として残っているものもあります。失われつつある地名に想いを馳せてみましょう。